

《第63回》西原3町内子ども会（4） 「ハロウィン運動会」 育成会会長 小田原 みどり

令和4年11月20日（日）に、西原小学校運動場にて『ハロウィン運動会』を開催しました。

事前に6年生の子ども達でリーダー・副リーダー・書記を決めて、これからどんなイベントをしたいか、どんな内容がいいかを話し合いました。そして、6年生のリーダーと当日の司会者で司会原稿を作成しました。



司会原稿作成中

「どんな内容がいいですか？」
「皆さん意見を出して下さい」



競技の「玉入れ」は、保護者が段ボール製のカゴを手作りしてくださり、玉は子どもと保護者が協力して新聞紙で作りました。

「宝探し」では、金色と銀色に塗装したドングリと松ぼっくりを宝にして行いました。塗装も子どもが保護者と一緒に楽しく行いました。

いろいろと準備をしておき、コロナ感染者が減少したタイミングを見計らってイベントを行い、今回は55人が参加しました。

「障害物競走」では、子どもたちが保護者にお手伝いをしてもらいながら行いました。最後の「お楽しみ抽選会」は地域の方にクジを引いていただき、当たった人はハロウィングッズや、金と銀の巨大松ぼっくりをもらいました。

子どもたちが中心になって企画・準備・運営してくれたお陰で、大変楽しいイベントになりました。子どもたちの頑張りが大変嬉しいです。そして、協力して下さった地域の皆様、保護者の皆様にも心から感謝します。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



開会式：子どもたちが運営しています。



障害物競走：スタート



障害物競争

ゴール↓



手作り用具で 玉入れ



←「宝探し」

金色の松ぼっくりを見つけて、景品のシャボン玉をもらいました。



「お楽しみ抽選会」

ハロウィングッズが当たりました

クジ引き



《事務局から》

事務局長 白石和典

- ① 活動報告有り難うございました。いろんな場面の写真があり、イベントを楽しんでいる様子がよく分かりました。場所は学校ですが、学校行事とは一味違い、自分たちで考えた手作りのイベントは大変素晴らしいです。
- ② この実践は市子協の理念の一つ「子どもによる 子どものための 子ども会活動」そのものだと思います。11月下旬に行われたR4年度指定都市子ども会育成研究協議会（大阪大会）の基調講演でも天理大学副学長の岡田龍樹先生が「子どもが中心になって展開する子ども会の実現」の必要性について述べられました。また、市子協総会時の講演で関西大学次世代博士研究員の田中晶子先生が、「動機づけを高める3欲求」として、「1自分で決めた、2達成感があった、3友達と一緒に・大人が見守って」と話されましたが正にそれらの実践です。
- ③ 子どもの主体性を大切に、そんな中で子どもに任せっぱなしではなく、必要に応じて大人が支援する。そして大人は保護者だけでなく地域の人も交えて活動する。というこの取り組みの姿勢に敬意を表します。これからも少しずつでもこのようにして子ども会活動をより活性化させて欲しいと思います。他の子ども会にもこのような取り組みが広がることを願っています。
- ④ 西原3町内子ども会のますますの活躍と子どもたちの健やかな成長を祈念いたします。